

商工観光労働企業委員会 県内所管事務調査の概要

【令和元年6月6日（木）】

◆調査箇所：八鹿酒造株式会社（九重町大字右田）

＜概要＞

約150年前に創業、創業時から製造している日本酒は、毎年開催される「全国新酒鑑評会」で107回金賞を受賞しており、九州で一番の実績をあげている。最近では、海外のコンテストに出品しており、輸出にも力を入れている。焼酎は約40年前から製造しており、「銀座のすずめ琥珀」はベルギーモンドセレクション最高金賞を13年連続受賞している。

また、6年前に総合衛生管理HACCPを取得、社員一丸となって品質の高い酒類製造に取り組んでいる。

＜主な質疑等＞

- ・ HACCPの取組について
- ・ 焼酎の海外での販売状況について



◆調査箇所：新栄合板工業株式会社大分工場（玖珠町四日市）

＜概要＞

主な事業内容は、針葉樹構造用合板及び塗装型枠用合板等の製造、販売。玖珠工業団地入居第1号として進出を決定、5月に竣工式を終え、6月からフル稼働している。最近の合板の需要増により水俣工場だけでは生産が追いつかず、原料である杉、ひのきが近くにあり、市場（主に福岡）にも近い玖珠町に工場を増設した。地元から原木を集め、地元の従業員で生産をする地域密着型の工場を目指している。

＜主な質疑等＞

- ・ 従事者の確保について
- ・ 原材料の調達について



◆調査箇所：大分キャノン株式会社日田事業所（日田市西有田）

＜概要＞

日田キャノンマテリアル株式会社が、2019年1月1日付けで大分キャノン株式会社と合併し、「大分キャノン（株）日田事業所」としてスタートしている。従業員310人は継続して雇用され、主に一眼レフカメラのユニット生産、コンパクトフォトプリンターの生産にあっている。

地域貢献にも精力的に努めており、障がい者の雇用、スポーツ事業（女子駅伝）への参加、地域の小学生の工場見学受入れ、花火大会への協賛、日田祇園祭への参加などに取り組んでいる。

＜主な質疑等＞

- ・ 昨今の人材不足の影響について
- ・ 従業員の構成について（地元採用率、外国人の状況等）



◆調査箇所：西部振興局、日田高等技術専門校

<概要>

西部振興局及び日田高等技術専門校から、管内の状況、商工観光労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興、観光の振興、地域振興、職業訓練の状況など所管事業の概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ オフィスビジネス科、ガーデンエクステリア科の入校に至る経緯について
- ・ 大規模小売店の進出状況について
- ・ 日帰り観光客数の減少要因について

【令和元年6月7日（金）】

◆調査箇所：大分県立工科短期大学校

<概要>

大分県立工科短期大学校は、産業界で活躍する優秀な工科系人材を教育訓練する短期大学校、企業が求める技術力と人間力を併せ持つ人材を育成するため、現在「3系（機械システム系、電気・電子システム系、建築システム系）7コース制」の教育訓練体制を取っている。

職業訓練の状況、溶接実習室などの概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 就職後の離職状況の把握について
- ・ 女子の応募状況について
- ・ 県外からの入学状況について

◆調査箇所：北部振興局

<概要>

北部振興局から、管内の状況、商工観光労働企業委員会に係る企業立地、観光の振興、商工業の振興など所管事業の概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ インバウンド客数、国別動向について
- ・ 観光入込客数の統計の取り方について
- ・ サイクルブームに係る林道整備の要望について

◆調査箇所：昭和の町（豊後高田市新町）

<概要>

昭和の町は、補助金を活用しインバウンド対策を強化している。平成30年度に、訪れた誰もが気軽に「昭和の店」を楽しめるとともに、インバウンドに対応するため、45店舗をそれぞれ「見る」「食べる」「買う」「遊ぶ」の категорияに分け、多言語の字幕を付した案内動画「手のひら案内人」を制作。また観光客が無料で使えるWi-Fi環境も整備している。昨年度の観光客数は過去2番目に多い39万7千人余りを記録、市内全体のインバウンドも過去最高の約1万6千人を記録している。



<主な質疑等>

- ・インバウンドの消費動向について
- ・Wi-Fiの導入に当たっての店舗、商店街連合会の負担について

◆調査箇所：豊後高田International Contribution事業協同組合（豊後高田市西真玉）

<概要>

豊後高田商工会議所、株式会社トヨタック、豊後高田市の3者で昨年2月に設立、官民協同の取組としては、全国で初めて監理団体許可を取得している。将来の労働力不足解消、地域産業の衰退を回避するためにベトナムから技能実習生を受け入れ様々な取組にあたっている。



<主な質疑等>

- ・ベトナム側の送り出し機関の選定方法について
- ・外国人と地域の方とのトラブル防止策について

【令和元年6月13日（木）】

◆調査箇所：古手川産業株式会社（津久見市合ノ元町）

<概要>

石灰製品を製造。昨年度、県のIoT化に対する投資への支援を目的とした補助を活用し、石灰石を運ぶベルトコンベアに重量センサーを設置し、製品の均一化を最小コストで行うシステムを構築している。



<主な質疑等>

- ・IoT実装の事業費の内容について
- ・近年の石灰の新しい利用法について

◆調査箇所：大分高等技術専門校

<概要>

新規学卒者や離転職者・一般求職者に対し、職業に関する知識や技能を習得させる県立職業能力開発校。2年制訓練の『メカトロニクス科』、1年制訓練の『電気設備科』『自動車整備科』『空調配管システム科』『木造建築科』の5科を設置し、ものづくり産業の発展に寄与する人材育成を行っている。

また、様々な職業訓練のニーズを踏まえ、介護福祉士養成科など、各種委託訓練を行っている。



<主な質疑等>

- ・委託訓練の内容、費用負担について
- ・就職後の定着等の追跡調査について
- ・外国人の受入れについて

◆調査箇所：中部振興局

<概要>

中部振興局から、管内の状況、商工観光労働企業委員会に係る企業立地、観光の振興、商工業の振興など所管事業の概要説明を受け、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・水稲、施設園芸の市ごとの数値目標について
- ・保戸島への観光客の動向及び観光施策について
- ・総合補助金の事業効果把握及び次年度への反映について

◆調査箇所：株式会社トライテック（大分市青崎）

<概要>

株式会社トライテックは鉄工所で溶接業務を行っている。県補助事業のおおいたI o Tプロジェクト推進事業を活用し、溶接技術者の作業データを数値化して研修等での活用用途を探ったり、スマートグラスを通して溶接工へ作業指示などが行えるシステムを構築中。

事業主体はコンソーシアム形式をとっており代表者は、システム開発者であるシェルエレクトロニクス株式会社が務めている。

(※撮影不可のため写真なし)

<主な質疑等>

- ・企業間の収益の配分方法について
- ・熟練者の作業データの新人指導への活用法について
- ・県に対する情報企業のマッチングや技術提供等の要望について

【令和元年6月14日（金）】

◆調査箇所：株式会社古城（大分市長浜町）

<概要>

株式会社古城では、SFAの導入、ノー残業デーの実施、営業朝礼の廃止、フリーアドレスの採用、テレワークスタイル導入等、働き方改革に取り組んでいる。その効果として、勤務時間が3年前と比較して、20パーセント強の削減となっている。

また、5月には「働き方改革実践ミニフェア」を開催し、他企業に自社の制度やツールの紹介をしている。

取組にあたっては、仕事の棚卸しが大事で、今後もITを駆使しながら仕事を振り分けることが何よりも必要と考えている。

<主な質疑等>

- ・働き方改革に取り組んだきっかけについて
- ・働き方改革のため導入した専用ソフトのメリットについて
- ・他企業へ紹介した自社の働き方改革の取組の広がり具合について



◆調査箇所：産業科学技術センター

<概要>

県内企業のものづくり活動に対する総合支援・研究機関。企業が抱える技術課題に対応するため、技術相談の対応を業務の基本に据え、依頼試験や機器貸付、企業ニーズに基づく共同研究等により迅速な課題解決に取り組んでいる。

また昨年4月にオープンした先端技術イノベーションラボ（D s -L a b o）は、西日本唯一のドローン開発拠点として、ドローン飛行試験用フィールドや世界最大級の磁気シールドルーム、電波暗室を備えている。

<主な質疑等>

- ・企業訪問の内容について（業種、調査項目等）
- ・焼酎用大分酵母を作るメリットについて
- ・機器貸付利用料金の設定について



◆調査箇所：ciRobotics株式会社（大分市賀来北）

<概要>

ciRobotics株式会社は平成27年設立。無人飛行機及びロボット制御システムの研究開発、製造、施工、保守管理などにあたっている。

今年2月、県からの委託事業として、佐伯市宇目にてドローンによる宅配の実証実験（全国で3例目となる補助者なし目視外飛行）を実施。また農業用（農薬散布）ドローン無人水上艇「YAMATO」、林業向けドローンの開発も行っている。

ロボット事業としては、様々な目的に応じた搬送用ロボットの開発、製造に取り組んでいる。

<主な質疑等>

- ・水上用ドローンの漁業関係への活用法について



◆調査箇所：株式会社デンケン本社工場（由布市挾間町鬼崎）

<概要>

株式会社デンケンは1975年創業、様々な電気電子応用機器の研究開発に取り組んでいる。

現在の事業内容は、半導体製造装置、太陽電池検査装置、試験用電源、駐車場総合管理システム、医療健康用具など多岐にわたっている。

また、昨年10月、自社の高度な技術をいかし、製作に関わった地球低軌道環境観測衛星「てんこう」を搭載したロケットが打ち上げられている。



<主な質疑等>

- ・外国人（実習生）の採用状況について
- ・勤務形態について
- ・社員の教育、研修体制について

◆調査箇所：柳井電機工業株式会社（大分市弁天）

<概要>

昨年7月にオフィスの大幅な改装を実施。キャビネットを極力減らし、書類を大幅に削減、電子化を進めている。またテレワークを試行的に実施したり、年に1度、職員が交替で5連休を取得できる制度を創設するなど、様々なオフィス改革、働き方改革に取り組んでいる。

また、社会貢献にも積極的で、津波等の災害に備え、災害物資セットを各職員に配布するとともに、地域住民にも配れるように備蓄している。



<主な質疑等>

- ・働き方改革実行の切り口について
- ・若者世代とのコミュニケーションの構築について

【令和元年6月20日（木）】

◆調査箇所：企業局大野川発電所（豊後大野市犬飼町大寒）

<概要>

大野川発電所は、昭和27年に発電開始、他の水力発電所とともに九州電力に売電している。現在はリニューアル工事中で、令和2年度末の完成を目指している。

総合管理センターの組織概要、企業局の施設位置、令和元年度の事業概要及び大野川発電所リニューアル事業について説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・隧道の点検に係る費用について
- ・補修・修繕にあたっての人手不足の影響について

◆調査箇所：三愛本舗（豊後大野市三重町市場）

<概要>

創業40年、主として饅頭、餅などの和菓子の製造、販売をしている。事業引継支援センターの支援を受け、平成30年1月に先代から事業承継。

事業承継を機に開発した新商品「旅するこびる」は、祖父の代から継承されてきた伝統と信頼のある和菓子作りの技術と、近年、美容・健康志向の高い人を中心に注目されている酵素シロップを融合させた新感覚の和スイーツ。事業承継時に掲げた新しい理念「進化する伝統」のもとで、これまでの商品を大事にしつつ、新しい商品開発にも意欲的に取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・事業引継支援センターの支援の内容について
- ・父親から家業を継いだ経緯について
- ・他の菓子店との連携について

◆調査箇所：稻積水中鍾乳洞（豊後大野市三重町中津留）

<概要>

日本最大級の水鍾乳洞。県の観光体験サービス開発支援事業費補助金を活用し、初心者から上級者までに対応した、国内初の鍾乳洞内ダイビングサービスを行い、集客に取り組んでいる。今後はより多くの愛好者への周知はもとより、初心者向けサービスの充実により顧客の裾野を広げていくことを目指している。昨年の施設の年間入場者数は5万5千人から6万人程度、10年前に比べ倍増している。



<主な質疑等>

- ・観光体験サービス開発支援事業費補助金の具体的用途について
- ・ダイビングショップとの連携について

◆調査箇所：株式会社レゾナイト（竹田市久住町大字有氏）

<概要>

阿蘇・くじゅう国立公園内に位置するリゾートホテル。県の観光体験サービス開発支援事業費補助金を活用して、戦国武将の陣羽織などを身にまとい、馬で疾走する戦国武将体験サービスを創出し、欧米からの誘客につなげている。また乗馬体験の姿をドローンで空撮し、DVDにして提供するなどのサービスも行っている。



<主な質疑等>

- ・戦国武将体験サービスの料金について
- ・観光体験サービス開発支援事業費補助金の実績について

◆調査箇所：豊肥振興局

<概要>

豊肥振興局から、管内の状況、商工観光労働企業委員会に係る企業立地、観光の振興、商工業の振興など概要説明を受け、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・旧市町村単位での宿泊状況について
- ・地域の事業者数の推移、事業承継の動きについて
- ・中間管理事業の実施状況について

【令和元年6月21日（金）】

◆調査箇所：ぶんど銘醸株式会社・有限会社亀の甲（佐伯市上岡）

<概要>

有限会社亀の甲は、平成16年10月、ぶんど銘醸株式会社の甘酒製造部門を引き継ぎ、甘酒製造の専門工場として設立された。最近の甘酒ブームにより、増産体制を図るため、親会社のぶんど銘醸（株）とともに門前工業団地に新工場を建設した。3月に操業開始した新工場は、一般の見学も可能で、観光機能も併せ持っている。



<主な質疑等>

- ・甘酒の季節ごとの売上状況について
- ・原材料としての地元産米の利用状況について
- ・同業者との連携、販路拡大の方針について

◆調査箇所：南部振興局、佐伯高等技術専門校

<概要>

南部振興局及び佐伯高等技術専門校から、管内の状況、商工観光労働企業委員会に係る企業立地、観光の振興、商工業の振興、職業訓練の状況など概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに係るモニターツアーの内容について
- ・建築科の訓練カリキュラムの内容について
- ・入校者確保へ向けての方策について

◆調査箇所：株式会社お菓子のウメダ（佐伯市鶴望寺田）

<概要>

地元の産品を使用した商品の開発、販売をしている。

また、大分県中小企業団体中央会や大分県菓子工業組合と新製品を協同開発するなど、新製品の開発に積極的に取り組んでいる。

平成27年度に県の経営革新支援制度を活用し、作成したギフト用のカタログが好評で、披露宴の引き出物等に利用されている。



<主な質疑等>

- ・「ギフトカタログ」の作成経緯及び販売状況について
- ・他の菓子屋とのコラボについて

◆調査箇所：株式会社長尾製作所（佐伯市堅田）

<概要>

精密板金加工部品を製造。半導体製造装置や鉄道車両用部品等の受注拡大、海外鉄道インフラ事業への参入等を目指している。また自社開発した藍色アルミ（アルミ素材に藍色の特殊表面処理技術）を活用した新製品の開発、販路開拓にあたっており、最近、販売した万年筆が好評である。



<主な質疑等>

- ・溶接技術へのロボットの活用について
- ・外国人技能実習生の受入状況について
- ・技術者の育成について

【令和元年6月25日（火）】

◆調査箇所：九州ナノテック光学株式会社（日出町大字藤原）

<概要>

自社の高度な技術をいかして開発した調光フィルムは他社製品にはない特徴を持っており、建材用や車両用として使われている。

その中でも、世界初の、電源OFF時透明・電源ON時白濁のリバースモードのフィルムを開発・製造して注目を集めている。

また、新工場を増設、生産能力を3倍にして中国などへの輸出を強化している。



<主な質疑等>

- ・フィルムの効果の持続期間について
- ・特許の取得状況について
- ・同業他社の状況について

◆調査箇所：東部振興局

<概要>

東部振興局から、管内の状況、商工観光労働企業委員会に係る企業立地、観光の振興、商工業の振興など概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・国東市商工会の経営指導員への具体的取組の有無について
- ・農業の担い手確保へ向けた打開策について
- ・国東の七島イ、別府の竹工芸など伝統産業の事業継承についての支援について

◆調査箇所：ANAインターコンチネンタル別府リゾート&スパ（別府市鉄輪）

<概要>

世界60カ国以上でホテルを展開する「インターコンチネンタルホテルズ&リゾーツ」のブランドを利用した、レストラン、スパ、温泉、プール等で構成される高級リゾートホテル。

館内に、地元特産の竹細工等を多様に取り入れ、多数の職人の作品を飾っている。これからも県内のアート作品を取り入れ、美術館のような位置付けをしたいと考えている。

ラインスタッフは8割以上が県内の出身者。インバウンドにも対応できるように、スタッフ総勢で12か国語に対応可能となっている。



<主な質疑等>

- ・外国人スタッフの採用状況について

◆調査箇所：大分県立竹工芸訓練センター

<概要>

新規学卒者や離転職者・一般求職者に対し、伝統的工芸品としての竹工芸の後継者育成や障がい者に対する職業訓練等に取り組む職業能力開発校。竹産業の振興に関する支援も行っている。

竹工芸科は、平成25年4月に2年制に移行。竹工芸品の製作に関する、竹材の材料加工・各種編組技術・染色・塗装技術を学び、現代社会のニーズに対応した竹製品を製作する技術と販売まで行える知識が習得できる。

その他、当校では、竹工芸家としての創業・自立支援のための作業・研究場所の提供、県内外からの技術相談の対応、企業への機器貸付業務を行っている。



<主な質疑等>

- ・卒業生の竹工芸職種の定着率について
- ・授業料（無料）の財源について
- ・応募者の数、年齢構成について